

# 報道 ニッポン

Monthly Graphic Journal : Houdou Nippon

issue 209 / Aug. 2006

8

特別企画

## 再生日本

- 企業家たちの横顔に迫る ● ドクター訪問 ● Specialistに学べ
- ニッポンを支える技と心～VIP・ザ・職人
- いい店 いい人 いい出会い



時事特集

### 自衛隊イラク派遣の功罪

— 今後の日本に与える影響

報道特集

### 携帯電話の進化がもたらす ビジネスチャンス



ゲストインタビュアーは俳優の岡本富士太氏



院長

## 工藤 千秋

長野県出身。幼きころより医師に憧れ、その道へと進む。鹿児島市立病院脳疾患救命救急センターで脳外科レジデントを修了後、英国パーミンガム大学に渡り、最先端の脳神経外科医療を学んだ。その後日本に戻り、労働福祉事業団東京労災病院脳神経外科で同科副部長を務めるが、自身の医療に対する考えを形にするため独立。平成13年11月に「くどうちあき脳神経外科クリニック」を開院する。医学博士の他、日本脳神経外科学会専門医、東邦大学客員講師、日本産業認定医など多数の肩書きを持つ。

脳神経外科の最先端治療に携わり、様々な医療の現場にて活躍されてきた工藤院長が、原点回帰をキーワードに平成13年に開院した「くどうちあき脳神経外科クリニック」。メスと薬のみに頼らない、患者のメンタル面からの治療を行うことで心身に回復をもたらすことをモットーとしている。脳神経外科の権威としてメディアなどでも活躍する工藤院長に、俳優の岡本富士太氏がインタビュー。

★★★

岡本 院長は脳神経外科について、どちらで経験を積まれたのですか。

工藤 イギリスのパーミンガム大学で脳移植に携わり、そこを拠点にアメリカ、ドイツ、スウェーデンでも経験を積みました。脳移植は日本では倫理的な問題から出来ませんが、海外では多数の成功例があり、学んだ最先端の技術は、

# メスと薬のみに頼らない 心を癒す脳神経外科クリニック



その後日本に帰ってきても大いに役立っています。

岡本 その後、いくつもの大病院で活躍してこられたわけですが、どうしてこちらの開院に至ったのですか。

工藤 勤務時に日本の医療体制について思うことが多々あり、それらの問題を解決するためには独立開業するしかないと思ったのです。例えば、日本はクリニックと大病院の機能分けが出来ていません。その結果、大病院に患者さんが集中して円滑な治療が行われない状況になっています。私共の開院によって、地域のそんな状況の改善に多少なりとも貢献したいと思ったのです。

また近年の傾向として、メスを入れるか、薬を処方さえすればあとは患者次第という考えの医者が増えています。その結果、いくら治療しても完治しないといった患者さんも増えているんですよ。ところがそういった方も、じっくりカウンセリングしていけば、驚くほど回復されます。ここに至って、私は治療とは人間の原点である心——メンタルな部分から行うものであるとの原点に回帰し、患者さんとより近い距離で治療を行うべく当院を開業したわけです。

岡本 では不治と諦める前に、こちらに一度相談に来るのがよいでしょうね。

工藤 是非、そうして下さい。また、当院は在宅診療も行っています。通院は難しいが治療後の見守りが必要な方などのご自宅にお伺いさせて頂いているのですよ。経過も良くなり、安心できるとご好評頂いています。このように、患者さんの心を癒し、そして身体も治療するクリニックとして今後も活動していきます。

岡本 益々のご活躍に期待しています。  
(2006年5月取材)

## くどうちあき脳神経外科クリニック

【DATA】

東京都大田区大森北 2-4-10 p<sup>2</sup>ビル1f

TEL 03-5767-0226 FAX 03-5767-0327

URL: <http://www.kudohchiaki.com/>

【診療科目】

脳神経外科 心療内科 神経内科 整形外科 訪問診療・看護・介護